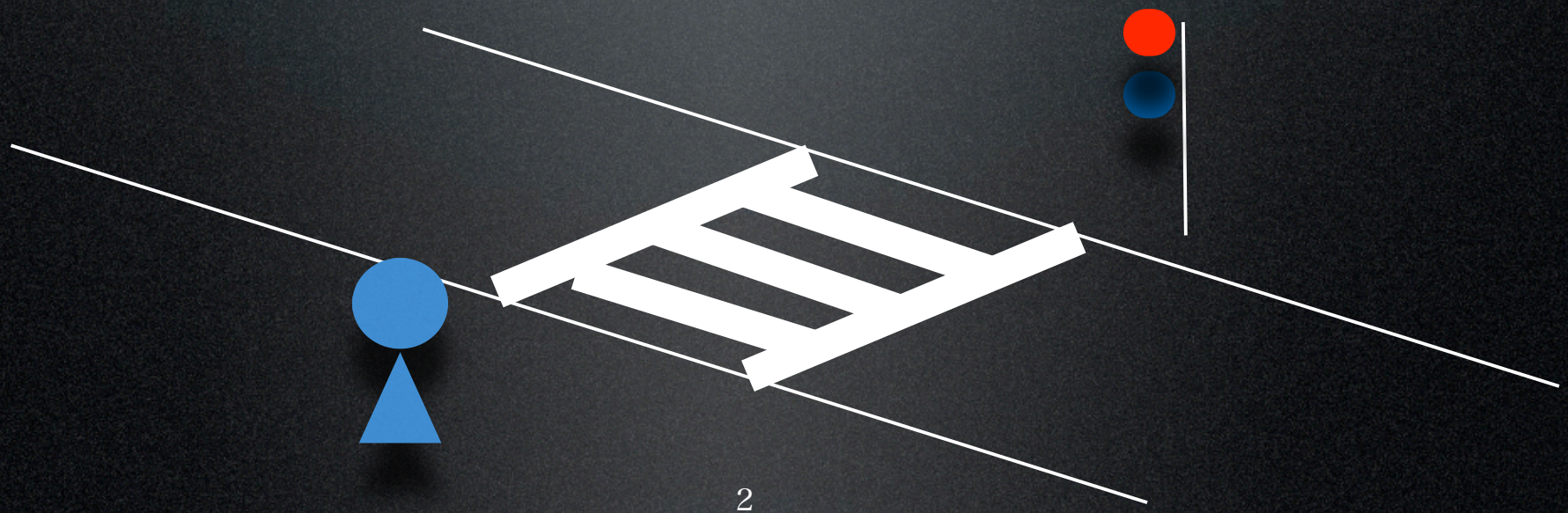
「道徳感情論」入門

--- D. ヒュームとA. スミスの倫理思想 ---

林 誓雄

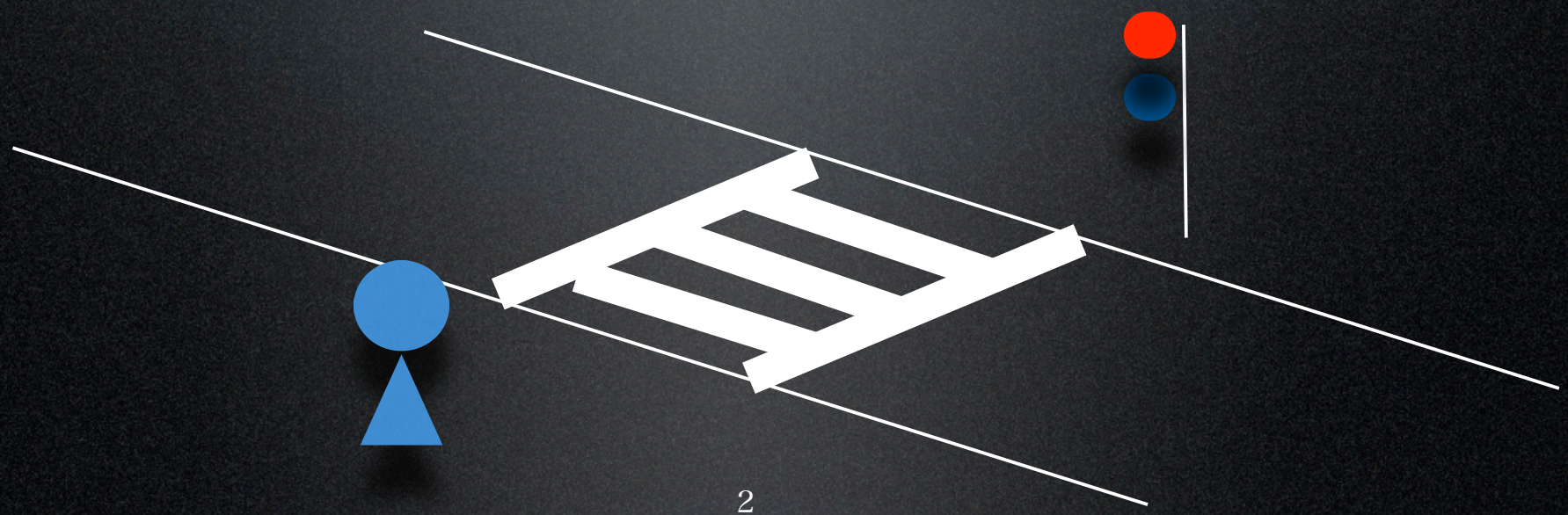
(文学研究科 倫理学)

Question !



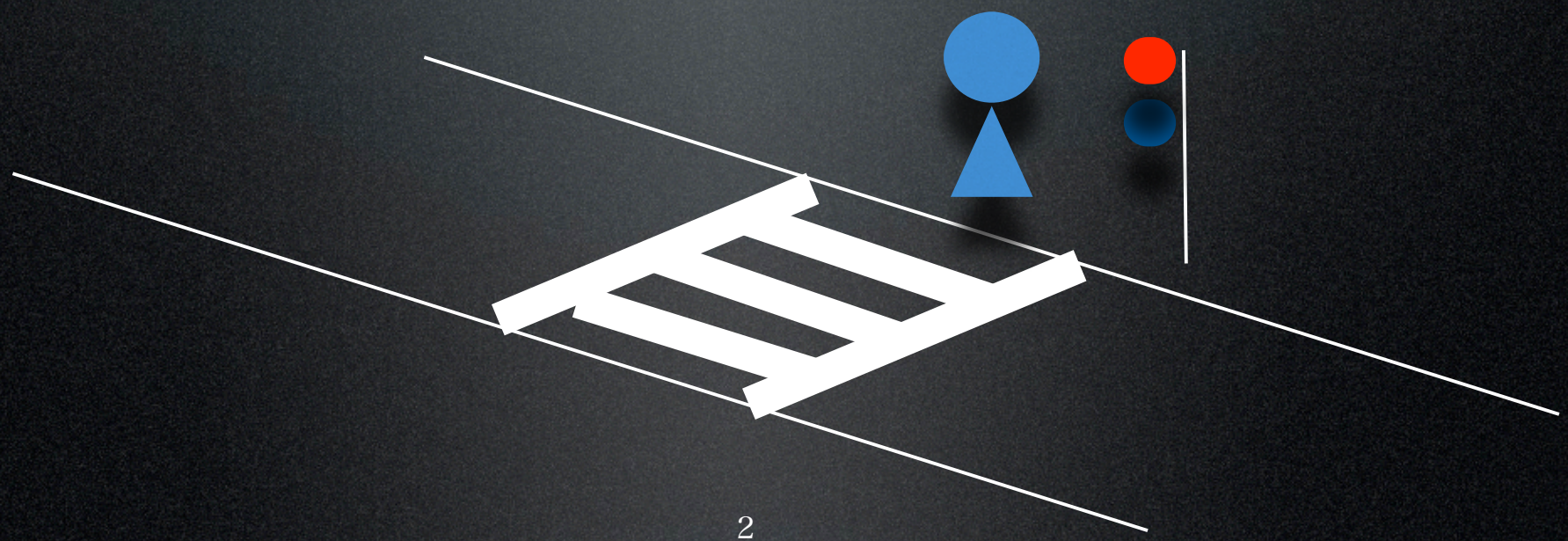
Question !

- 真夜中、 車が来ておらず、しかも 誰も見ていないとしたら、赤信号だけれど、あなたは横断歩道を渡りますか？



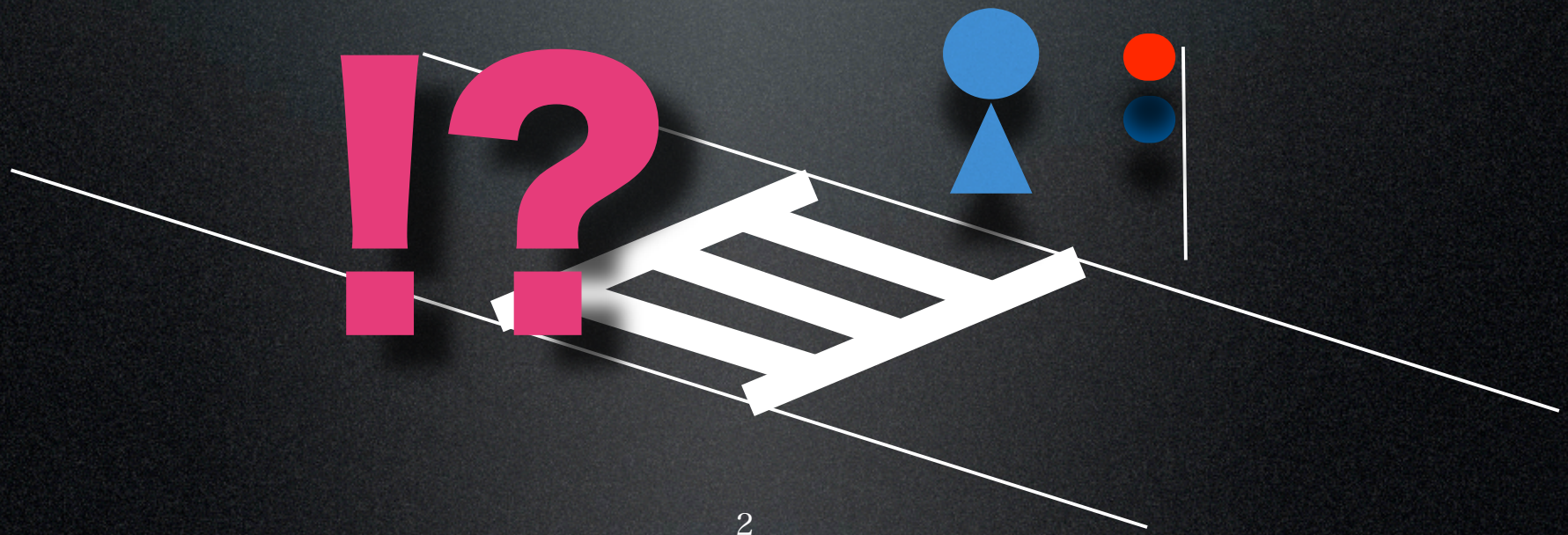
Question !

- 真夜中、 車が来ておらず、しかも 誰も見ていないとしたら、赤信号だけれど、あなたは横断歩道を渡りますか？



Question !

- 真夜中、 車が来ておらず、しかも 誰も見ていないとしたら、赤信号だけれど、あなたは横断歩道を渡りますか？



倫理学ってなに？

- われわれが「赤信号の横断歩道を渡るのは悪い」とか、「人助けをするのは正しい」といった判断をするとき、その「悪い」とか「正しい」とかの判断の基準になっているものはなんだろう？

倫理学ってなに？

- 道路交通法などの法律と何らかの**関係をもちながら**も、「法律」そのものではなく、「法律」とは**ちょっと違う基準・尺度**が、「倫理」とか「道徳」などと呼ばれているもの。

倫理学ってなに？

- 倫理学という学問は、この《倫理なるもの》が、一体どういう尺度なのかを、体系的に明らかにしようとするもの。

(以上、伊勢田[2008])

今週の講義の流れ

目的：倫理学における「理性主義」と「感情主義」との対立をおさえてもらう。その上で、感情主義の代表の一人であるヒュームの倫理思想について理解する。

今週の講義の流れ

目的：倫理学における「理性主義」と「感情主義」との対立をおさえてもらう。その上で、感情主義の代表の一人であるヒュームの倫理思想について理解する。

1. 倫理学の三本柱と
いろんな対立軸

↓

2. カントの
理性主義的倫理学

↓

3. ヒュームの
感情主義的倫理学

倫理学の三本柱

倫理学の三本柱

[1] 徳倫理学

倫理学の三本柱

[1] 徳倫理学 Virtue Ethics

⇒ 感情や性格(人柄)などに重点を置いて倫理というものを考える。 (アリストテレス etc.)

倫理学の三本柱

[1] 徳倫理学 Virtue Ethics

⇒ 感情や性格(人柄)などに重点を置いて倫理というものを考える。 (アリストテレス etc.)

[2] 義務論

倫理学の三本柱

[1] 徳倫理学 Virtue Ethics

⇒ 感情や性格(人柄)などに重点を置いて倫理というものを考える。 (アリストテレス etc.)

[2] 義務論 Deontology

⇒ 行為の評価は、その動機や意図が「義務」にかなっているかどうかで行なわれる。

(I. カント etc.)

倫理学の三本柱

[1] 徳倫理学 Virtue Ethics

⇒ 感情や性格(人柄)などに重点を置いて倫理というものを考える。 (アリストテレス etc.)

[2] 義務論 Deontology

⇒ 行為の評価は、その動機や意図が「義務」にかなっているかどうかで行なわれる。

(I. カント etc.)

[3] 功利主義

7

倫理学の三本柱

[1] 徳倫理学 Virtue Ethics

⇒ 感情や性格(人柄)などに重点を置いて倫理というものを考える。 (アリストテレス etc.)

[2] 義務論 Deontology

⇒ 行為の評価は、その動機や意図が「義務」にかなっているかどうかで行なわれる。

(I. カント etc.)

[3] 功利主義 Utilitarianism

⇒ 関係者の幸福を総和して、その幸福の量が少しでも多くなる選択肢を選べとする。

(J. ベンサム / J. S. ミル etc.)

義務論 vs. 功利主義 と 徳倫理

[3] 功利主義

[2] 義務論

[1] 徳倫理学

義務論 vs. 功利主義 と 徳倫理

[3] 功利主義

結果が大事

[2] 義務論

[1] 徳倫理学

義務論 vs. 功利主義 と 徳倫理

[3] 功利主義 VS [2] 義務論

結果が大事

[1] 徳倫理学

義務論 vs. 功利主義 と 徳倫理

[3] 功利主義 VS [2] 義務論

結果が大事　　動機が大事

[1] 徳倫理学

義務論 vs. 功利主義 と 徳倫理

[3] 功利主義 VS [2] 義務論

結果が大事　　動機が大事

↓

[1] 徳倫理学

義務論 vs. 功利主義 と 徳倫理

[3] 功利主義 VS [2] 義務論

結果が大事　　動機が大事

[1] 徳倫理学

感情・性格が大事

徳倫理学 と 義務論

[1] 徳倫理学 VS [2] 義務論

徳倫理学 と 義務論

[1] 徳倫理学 VS [2] 義務論

感情

〔代表格〕

D. ヒューム

A. スミス

徳倫理学 と 義務論

[1] 徳倫理学 VS [2] 義務論

感情

〔代表格〕
D. ヒューム
A. スミス

理性

〔代表格〕
I. カント

[2] 義務論　理性に基礎づける倫理学

[2] 義務論　理性に基礎づける倫理学

- イマヌエル・カント
  [1724-1804]

[2] 義務論　理性に基礎づける倫理学

- イマヌエル・カント
  [1724-1804]

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

[2] 義務論　理性に基礎づける倫理学

- イマヌエル・カント [1724-1804]

- 『純粋理性批判』[1781/87]
- 『道徳形而上学の基礎付け』[1785]
- 『実践理性批判』[1788]
- 『判断力批判』[1790]

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

カントの倫理学

カントの倫理学

人間とは、理性的存在者だけど、常に感性的刺激(欲求や感情)の影響も受けている。

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

カントの倫理学

カントの倫理学

理性

カントの倫理学

理性

感性

欲求・感情

12

カントの倫理学

理性

感性

欲求・感情

仮言命法

熟練の規則

怜悧の助言

12

カントの

理性

「もし〜したいなら…せよ」

仮言命法

熟練の規則

怜悧の助言

12

カントの倫理学

理性

感性

欲求・感情

仮言命法

熟練の規則

怜悧の助言

12

カントの倫理学

各自の欲求や関心に基づく個々の具体的目的に到達するための行為を指示するもの。

感性

欲求・感情

仮言命法

熟練の規則

怜悧の助言

12

カントの倫理学

理性

感性

欲求・感情

仮言命法

熟練の規則

怜悧の助言

12

カントの倫理学

理性

誰もが求める一般的目的である**幸福**に至る行為を示すもの。

感性

欲求・感情

仮言命法

熟練の規則

怜悧の助言

12

カントの倫理学

理性

感性

欲求・感情

仮言命法

熟練の規則

怜悧の助言

12

カントの倫理学

理性

感性

欲求・感情

定言命法

仮言命法

熟練の規則

怜悧の助言

の倫理学

端的に
「…せよ」

感性

欲求・感情

定言命法

仮言命法

熟練の規則
怜悧の助言

カントの倫理学

カントの倫理学

人間にとって「道徳的に行為する」というのは、**感性**に流されることなく**理性の自己立法**によって定められた「道徳法則」に従って行為すること。

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

カントの倫理学

自律！

人[illegible]道徳的に
行[illegible]うのは、
感性に流されることなく
理性の自己立法によって
定められた「道徳法則」
に従って行為すること。

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

なぜ感性ではダメなの？

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

なぜ感性ではダメなの？

欲求や行為の目的は多様で個別的だから

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

なぜ感性ではダメなの？

欲求や行為の目的は多様で個別的だから ✕

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

なぜ感性ではダメなの？

欲求や行為の目的は多様で個別的だから ✕

幸福も人によって様々で、自分を幸福にする行為が必ずしも他の人に幸福をもたらすとは限らないから

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

なぜ感性ではダメなの？

欲求や行為の目的は多様で個別的だから ✕

幸福も人によって様々で、自分を幸福にする行為が必ずしも他の人に幸福をもたらすとは限らないから ✕

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

なぜ感性ではダメなの？

欲求や行為の目的は多様で個別的だから ✕

幸福も人によって様々で、自分を幸福にする行為が必ずしも他の人に幸福をもたらすとは限らないから ✕

カント

道徳は、いつでもどこでも誰にでも妥当する普遍性が大事！

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

定言命法

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

定言命法

「汝の格率が普遍的法則となることを、その格率を通じて自分が同時に意志できる格率にしたがってのみ行為せよ」

[引用-1]

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

定言命法

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

定言命法

人が自分の意志決定をするための**主観的規則**(＝格率)が、同時に**普遍的法則**になることも彼が意志できるような、そういう法則に従ってのみ人は行為すべきである。

(Cf. 内井[1988])

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

定言命法

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

定言命法

すべての理性的な人が、すべてのひとに適用されることを望み、かつ自分も同意できるような、そういう規則に従ってのみ人は行為すべきである。

(Cf. 内井[1988])

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

カント倫理学

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

カント倫理学

定言命法に従うこと＝義務

それが「義務だから」という理由でなされる行為だけが道徳的に善い。
単に「義務にかなっている」だけではダメ！

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

まとめ：カント倫理学の性格

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

まとめ：カント倫理学の性格

1．「道徳」から「感性的要素(欲求、幸福)」の完全排除

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

まとめ：カント倫理学の性格

1.　「道徳」から「感性的要素(欲求、幸福)」の完全排除

2.　道徳においては、普遍性というものが大事

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

まとめ：カント倫理学の性格

1.　「道徳」から「感性的要素(欲求、幸福)」の完全排除

2.　道徳においては、普遍性というものが大事

3.　理性の自己立法(自分で考える、つまり自律の倫理学)

カント

出所　http://ja.wikipedia.org/wiki/ イマヌエル・カント

- カント由来とされる義務論は倫理学の三本柱の一つ
- カントは現代の倫理学的議論に大きな影響
- キーワードとしては、

「普遍主義」「自律」「人格の尊厳」

問題点(O'Neil[1991], 伊勢田[2008])

- 厳しすぎ？(厳格主義！)
- 具体性のなさ(形式主義！)
- 義務同士の衝突は？(ハインツのジレンマ)
- 感情や欲求の位置：「美しき魂(シラー)」
  ⇒ 快や不快の感情、あるいは幸福への欲求は、道徳・倫理にとって本当に不要？

感情に基礎をおく倫理学

感情に基礎をおく倫理学

- 代表的な思想家たち

シャフツベリ(Anthony Ashley Cooper;
3rd Earl of Shaftesbury[1671-1713])
ハチスン(Francis Hutcheson[1694-1746])
ヒューム(David Hume[1711-1776])
アダム・スミス(Adam Smith[1723-90])

感情に基礎をおく倫理学

✤ 代表的な思想家たち

シャフツベリ(Anth
3rd Earl of Sh
ハチスン(Francis Hutches
ヒューム(David Hume[17
アダム・スミス(Adam Sm

徳と美の直観的能力として道徳感覚moral senseを重視。のちにハチスンを教える。

出所 http://www.utm.edu/research/iep/s/shaftes.htm

感情に基礎をおく倫理学

- 代表的な思想家たち

シャフツベリ(Anthony Ashley Cooper;
3rd Earl of Shaftesbury[1671-1713])
ハチスン(Francis Hutcheson[1694-1746])
ヒューム(David Hume[1711-1776])
アダム・スミス(Adam Smith[1723-90])

感情に基礎をおく倫理学

✤ 代表的な思想家

シャフツベリ(Ant

3rd E

ハチスン(F

ヒューム(David H

アダム・スミス(A

ロックの認識論をふまえつつ道徳感覚を提唱し、仁愛という利他的動機を道徳的善と規定。ヒュームと交流をもち、アダム・スミスを教えた。「最大多数の最大幸福」という言葉を最初に用いた人物として有名。

出所　http://www.universitystory.gla.ac.uk/biography/?id=WH0191&type=P

感情に基礎をおく倫理学

- 代表的な思想家たち

シャフツベリ(Anthony Ashley Cooper;
3rd Earl of Shaftesbury[1671-1713])
ハチスン(Francis Hutcheson[1694-1746])
ヒューム(David Hume[1711-1776])
アダム・スミス(Adam Smith[1723-90])

感情に基礎をおく倫理学

出所 http://faculty.uml.edu/enelson/modern07.htm

感情に基礎をおく倫理学

デイヴィッド・ヒューム

- 18世紀スコットランドの哲学者、歴史家。
- 1739,1740年に『人間本性論』全三巻をフランスにて執筆。
- 1748年『人間知性の探求』1751年『道徳原理の探求』
- 1754-62年『イングランド史』

出所 http://faculty.uml.edu/enelson/modern07.htm

感情に基礎をおく倫理学

デイヴィッド・ヒューム

- 18世紀スコットランドの哲学者、歴史家。
- 1739,1740年に『人間本性論』全三巻をフランスにて執筆。
- 1748年『人間知性の探求』1751年『道徳原理の探求』
- 1754-62年『イングランド史』

出所 http://ja.wikipedia.org/wiki/ デイヴィッド・ヒューム

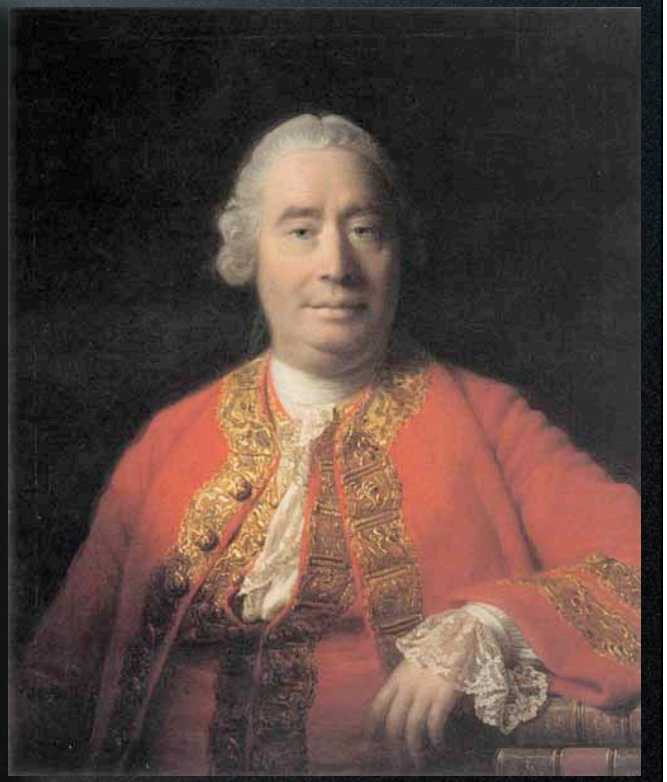
デイヴィッド・ヒューム

デイヴィッド・ヒューム

◇　ロック、バークリの後を受けたイギリス経験論のひとり

◇　懐疑論、因果論、人格の同一性論で有名なひと

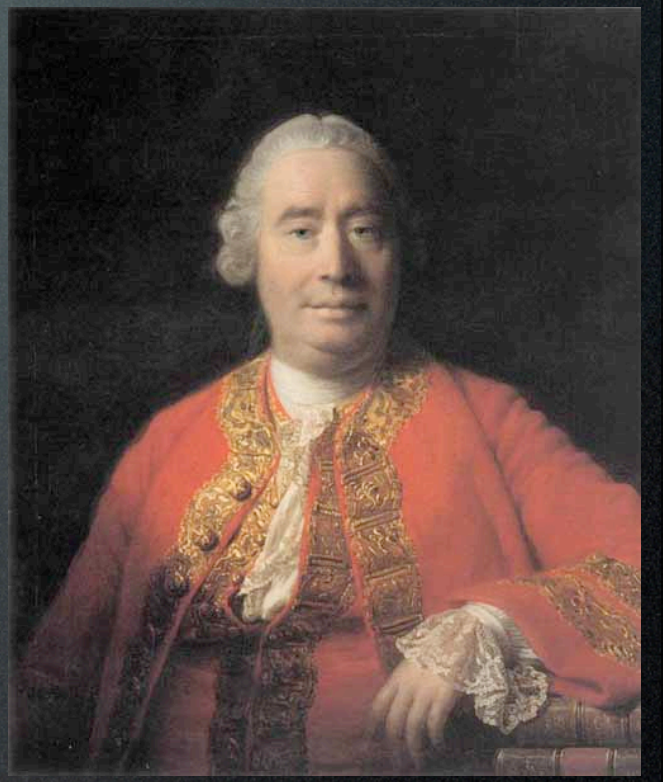
◇　カントを「独断の微睡み」から目覚めさせ、哲学探究の全く新しい方向を与えたひと



ヒューム

出所 http://ja.wikipedia.org/wiki/ デイヴィッド・ヒューム

ヒュームの道徳哲学・倫理学？



ヒューム

出所 http://ja.wikipedia.org/wiki/ デイヴィッド・ヒューム

ヒュームの道徳哲学・倫理学？

キーワード

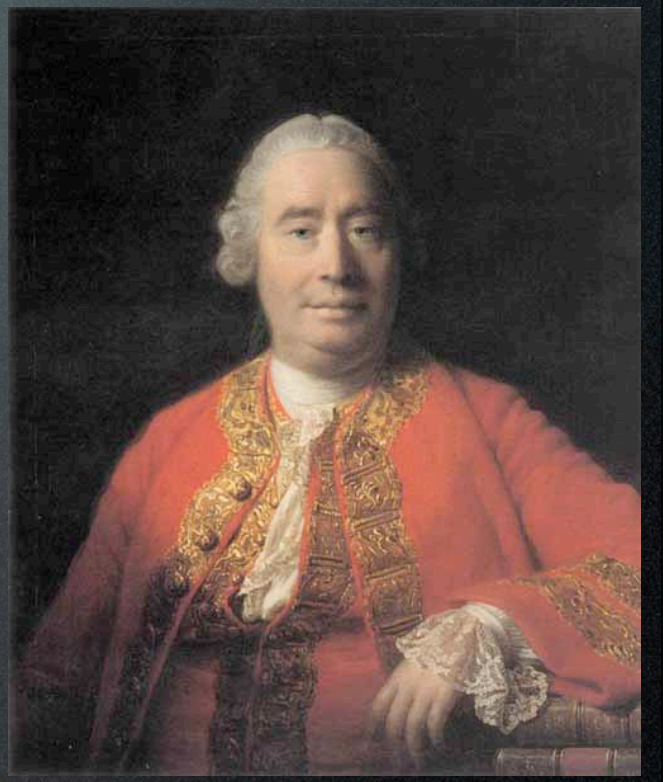
◆ 道徳の**世俗化**

◆　道徳を**感情**に基礎付ける

⇔　「道徳感覚」は否定

◆ 道徳を二つに区別

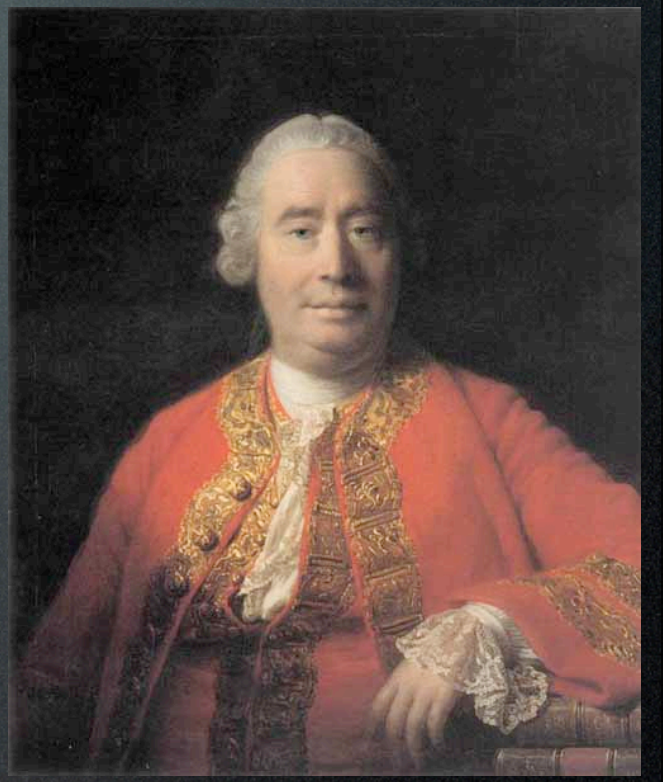
→ **自然的徳**と**人為的徳**



ヒューム

出所 http://ja.wikipedia.org/wiki/ デイヴィッド・ヒューム

ヒュームの道徳哲学・倫理学？



ヒューム

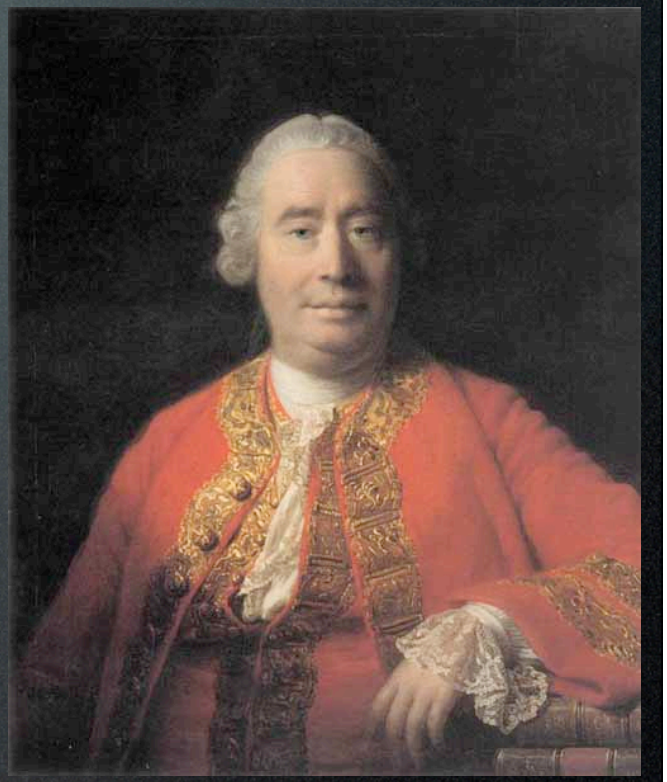
出所 http://ja.wikipedia.org/wiki/ デイヴィッド・ヒューム

ヒュームの道徳哲学・倫理学？

理性主義的道徳説への批判

(1)理性だけではわれわれを行為へと動かすことができない (**道徳の実践性**)。

(2)「道徳」とは、理性の推理によって発見できる対象ではない (**道徳の非実在性**)。



ヒューム

出所 http://ja.wikipedia.org/wiki/ デイヴィッド・ヒューム

(1)道徳の実践性

(1)道徳の実践性

「理性とは情念の奴隷であり、かつ奴隷でのみあるべきであって、情念に仕え、それに従う以外のつとめを何か持っていると主張することは決してできない。」[引用-2]

(1)道徳の実践性

「理性とは情念の奴隷であり、かつ奴隷でのみあるべきであって、情念に仕え、それに従う以外のつとめを何か持っていると主張することは決してできない。」[引用-2]

理性が人間を行為へ導いているのではなく、感情・情念が行為を引き起こしているのだ！

(1)道徳の実践性

(1)道徳の実践性

理性

- 計算能力
- 事実認識
- (目的-手段)関係の把握

＋

情念

- 快苦の感情
- 欲求
- 行為の動機付け

(1)道徳の実践性

理性

- 計算能力
- 事実認識
- (目的-手段)関係の把握

＋

情念

- 快苦の感情
- 欲求
- 行為の動機付け

注意！：

カントが欲求や感情、そして幸福などを、「道徳」の場面から完全排除したのに対し、ヒュームは「道徳」に「理性は不要」とは言っていない。情念単独では盲目だから、導いてやる案内役(理性)が必要！

(2)道徳の非実在性

「…たとえば故意の殺人について考えてみよう。あらゆる観点から故意の殺人について検討して、「あなたが悪徳と呼ぶ事実、つまり実在するものを見出すことができるかどうか」考えてみよう。故意の殺人をどんな仕方で取り扱おうと、あなたはある種の情念、動機、意志の働き、そして思惟しか見出さない。この場合、それ以外の事実は一切存在しない。あなたが対象を考察している限り、悪徳はあなたから完全に消えてしまう。あなたが自分の反省を自分自身の胸の内へと向け、　そして、自分のうちに生じ、この[故意の殺人という]行為へと向けられる否認の感情を見出すまで、悪徳を見出すことは決してできないのだ。[引用-3]」

(2)道徳の非実在性

「…たとえば故意の殺人について考えてみよう。あらゆる観点から悪徳と呼ぶ事実を見るかどうか、取り扱おうとの働き、そして思惟しか出さない。この場合、それ以外の事実は一切存在しない。あなたが対象を考察している限り、悪徳はあなたから完全に消えてしまう。あなたが自分の反省を自分自身の胸の内へと向け、そして、自分のうちに生じ、この[故意の殺人という]行為へと向けられる否認の感情を見出すまで、悪徳を見出すことは決してできないのだ。[引用-3]」

是認approvation ≒ 好き、賛成
否認disapprovation ≒ 嫌い、反対

(2)道徳の非実在性

「ここ[胸中]には事実がある。だが、この事実は感じfeelingの対象ではあるが理性の対象ではない。この事実はあなた自身の内にあるのであって、対象の内にあるのではない。それゆえ、あなたが何らかの行為や性格が悪徳であると宣言するときに意味しているのは、「あなたの本性の構造から、その行為や性格について熟慮することによって、非難の感じ、ないし感情を抱く」ということに他ならない。」[引用-3]

(2)道徳の非実在性

(2)道徳の非実在性

見てる人
デービッドさん
スコットランド在住

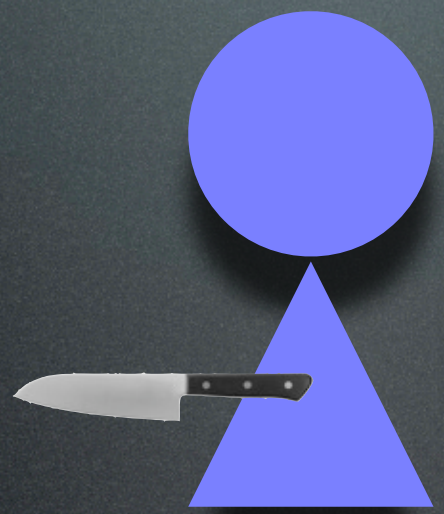
出所 http://faculty.uml.edu/enelson/modern07.htm

(2)道徳の非実在性

見てる人
デービッドさん
スコットランド在住

出所 http://faculty.uml.edu/enelson/modern07.htm

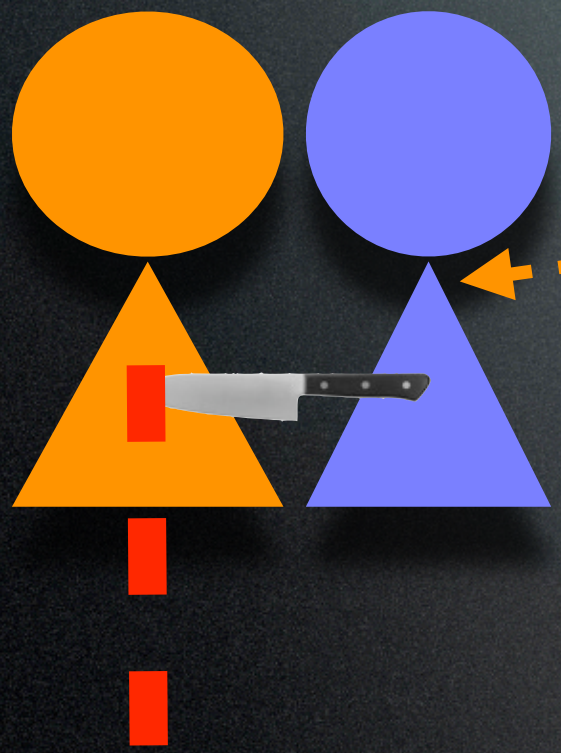
(2)道徳の非実在性



見てる人
デービッドさん
スコットランド在住

出所 http://faculty.uml.edu/enelson/modern07.htm

(2)道徳の非実在性



見てる人
デービッドさん
スコットランド在住

出所 http://faculty.uml.edu/enelson/modern07.htm

ヒュームの道徳哲学・倫理学

ヒュームの道徳哲学・倫理学

(1)　行為者を実際に行為に動かすためには、理性ではなく、情念・感情が必要！

(2)「道徳的善悪(徳・悪徳)」は、「対象そのもの」や「対象間の関係」にあるのではなく、観察者の胸中で抱かれる情念・感情にある

ヒュームの道徳哲学・倫理学

(1) 行為者を動かすために情が必要！

行為の動機づけの
「信念-欲求」モデル

(2)「道徳的善悪(徳・悪徳)」は、「対象そのもの」や「対象間の関係」にあるのではなく、観察者の胸中で抱かれる情念・感情にある

ヒュームの道徳哲学・倫理学

(1) 行為者を動かすた
情

功績！

行為の動機づけの
「信念-欲求」モデル

(2)「道徳的善悪(徳・悪徳)」は、「対象そのもの」や「対象間の関係」にあるのではなく、観察者の胸中で抱かれる情念・感情にある

ヒュームの道徳哲学・倫理学

(1) 行為者を動かすた
情

功績！

行為の動機づけの
「信念-欲求」モデル

(2)「道徳的善悪(徳・悪徳)」は、「対象そのもの にある
のではなく、 る情
念・感情にある

道徳判断の主観主義

ヒュームの道徳哲学・倫理学

(1) 行為者を動かすた
情

功績！

行為の動機づけの
「信念-欲求」モデル

(2)「道徳的善悪(徳・悪徳)」は、「対
にある
る情
念・感情にある

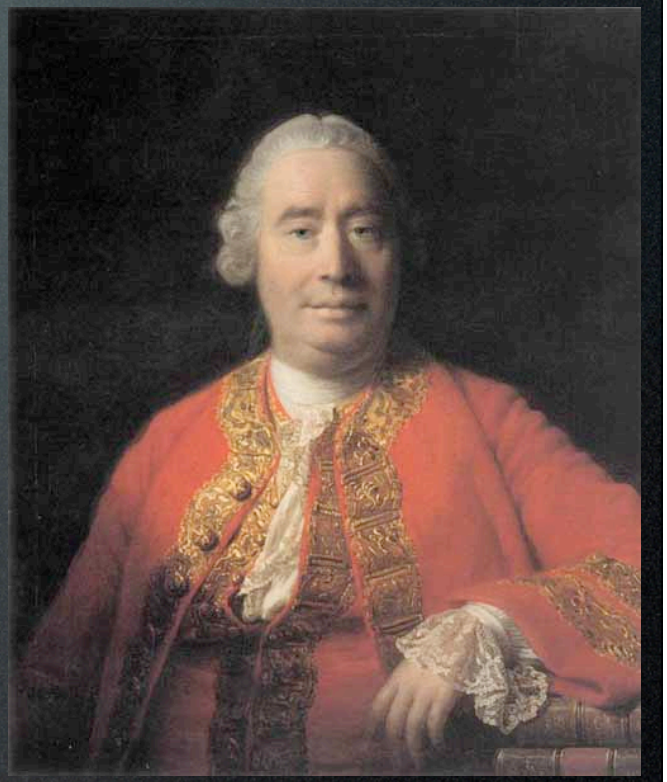
問題点？

道徳判断の主観主義

道徳判断の主観主義？？？

ヒュームは道徳的評価の仕組みについて「単純な主観主義」を採用しているとされることがある

(e.g.Stevenson[1937])



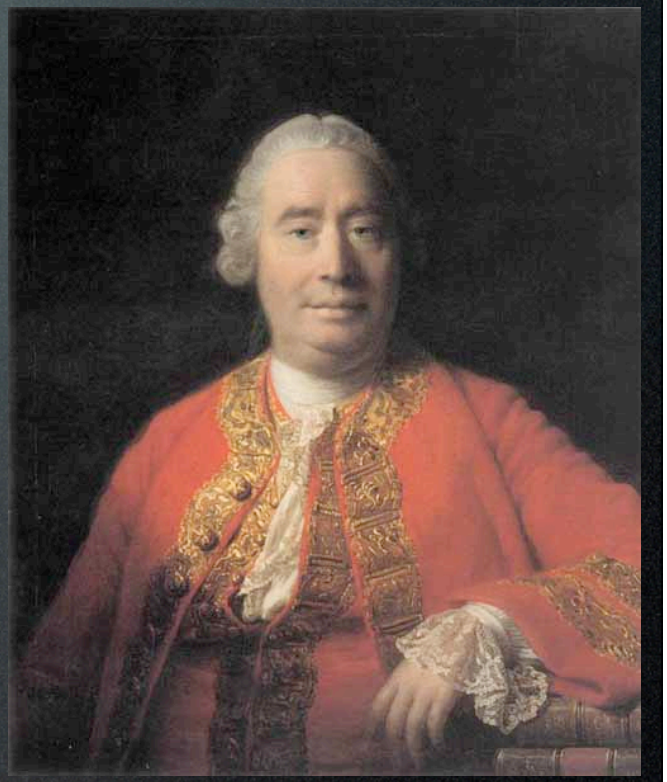
ヒューム

出所 http://ja.wikipedia.org/wiki/ デイヴィッド・ヒューム

道徳判断の主観主義？？？

ヒュームは道徳的評価の仕組みについて「単純な主観主義」を採用しているとされることがある

(e.g.Stevenson[1937])



ヒューム

でも、個人的な是認(スキ)・否認(キライ)の感情で「道徳判断」しちゃってよいの？

出所 http://ja.wikipedia.org/wiki/ デイヴィッド・ヒューム

道徳判断の主観主義？？？

ヒュームは道徳的評価の仕組みについて「単純な主観主義」れるこ

(e.g.Stevenson[19 7])

道徳判断て客観的なものじゃないの？

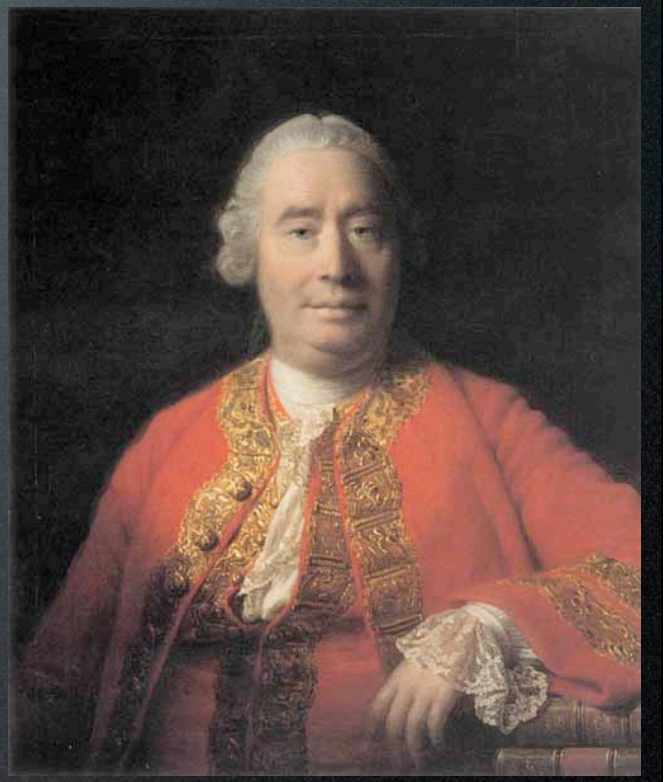
ヒューム

でも、個人的な是認(スキ)・否認(キライ)の感情で「道徳判断」しちゃってよいの？

33

出所 http://ja.wikipedia.org/wiki/ デイヴィッド・ヒューム

道徳判断の仕組み　再検討



ヒューム

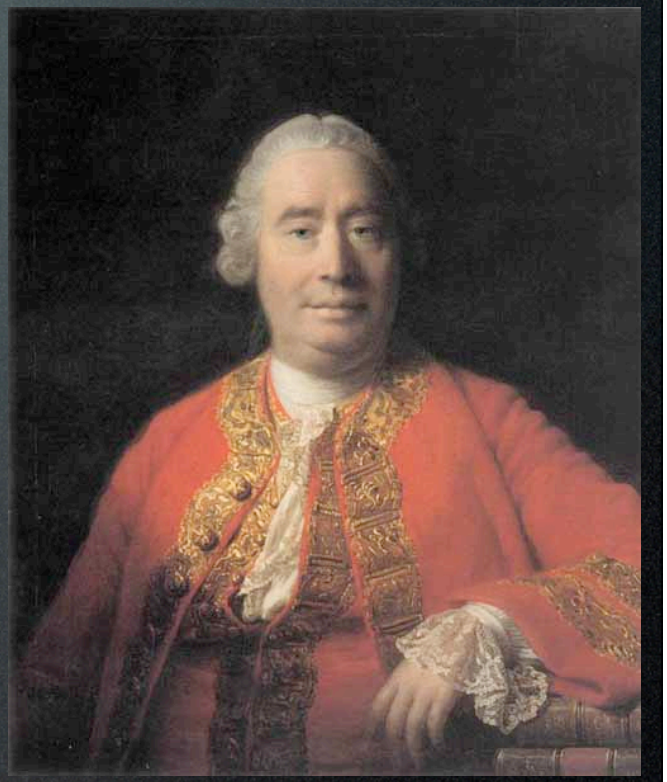
出所 http://ja.wikipedia.org/wiki/ デイヴィッド・ヒューム

道徳判断の仕組み　再検討

1. 道徳判断とは、行為者の**性格**に対して下されるもの

2. ほとんどの道徳判断には「**共感**」というものが関与

3. 「共感」のブレを補正するための「**一般的観点**」という装置



ヒューム

出所 http://ja.wikipedia.org/wiki/ デイヴィッド・ヒューム